

第3回鹿屋市環境審議会 会議録

日 時	令和6年3月18日(月)13時30分～14時10分		
場 所	肝属地区清掃センター 2階会議室	記録者	古鉄
出席者等	環境審議会委員6名 委員一覧は別紙のとおり 永山市民生活部長 曾原生活環境課長、有馬課長補佐、小原主幹、川原係長、山口主任、古鉄		
趣 旨 的 目 的	○ゼロカーボンシティかのや推進計画(案)について意見を伺うもの		
協 議 結 果	○具体的な答申の最終的な文面については、小林会長及び事務局に一任し、市長へ提出する。		
黒羽子 委員 事務局	<p>1 開会</p> <p>本日の会議開催に当たっては、15人中8人出席予定であったが、急遽、伊東氏、中村氏から欠席の連絡が入った。</p> <p>鹿屋市環境審議会規則第6条に基づき、会長が、今回の審議会については、欠席委員からは、委任状をもらっており、委任状を含めて過半数要件を満たすという考え方でよいか審議会委員に諮り、賛同を得られたことから、会議を開催した。</p> <p>2 議事</p> <p>(1) (仮称)ゼロカーボンシティかのや推進計画(案)について 事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回鹿屋市環境審議会以降の主な変更箇所について ・パブリックコメントの実施結果について ・ゼロカーボンシティかのや推進計画(案)について <p>【質疑応答】</p> <p>電気の地産地消と記載しているが、電力の出力・発電制限について教えてほしい。</p> <p>春先や秋口に発電量が電気の需要量を上回るため、出力抑制を行う。発電した電気が余ってしまう状況となり、電気の買取をせず、送電網にも流さないことから、売電事業者が想定していた太陽光発電による利益を得ることができなくなることから、ここ1・2年でFITが岐路にたっている。</p> <p>現在は、自家消費型にシフトしており、1番手っ取り早い地産地消である。</p> <p>市としても、家庭向けの自家発電型の太陽光発電設備、蓄電池設置補助を行っており、太陽光発電設備は5kW、蓄電池は10kWh未満としているが、平均の価格は約300万円。市の補助が平均約80万円であり、手出しが200万円強である。</p>		

松山 委員	<p>答申（案）だが、「環境に配慮する意識」を盛り込むべきである。脱炭素化への行動を実践することはなかなか難しいと思うが、市民が実行できるようにしてほしい。また、未来のことを考える大事な審議会を欠席される委員が多く、少ない人数で内容を決定していくことが悲しい。欠席者も意見を出してほしかった。</p>
事務局	<p>欠席者がいることは、事務局としても心苦しいが、欠席者にも会議後に内容を報告して意見がないか確認を行っている。また、推進計画の中には、目標を入れており、これらを実行してかなければいけないと記載している。</p>
宮ノ下 委員	<p>事務局説明であったが、これまでの審議会や議員説明会で挙げた意見を取り入れた良い計画となっていると思う。後は、この計画の進捗管理が大切だと思う。</p>
小林 会長	<p>答申（案）については、委員の意見も考慮して、私（会長）と事務局で検討し、市長に提出して良いか。⇒了</p>
	<p>3 その他 意見なし (閉会)</p>